



明治七年
 敬言察本里事務簿
 敬言備隊一件書
 佐賀勤搖一件書

全

特別
 5
 15676



45
15676

佐賀縣動搖書
并函外書數

八年
敬言備隊一件書并
佐賀動搖一件書

長崎
山縣
法

Handwritten notes on a small slip of paper, likely a library label or inventory record, containing vertical Chinese characters.

45
15676

佐賀縣動搖
並山内
外書
發

長崎
山内
法
子

長崎縣

依賀縣所送征討蓮池マテ進入を以て
昨亦ハ降伏し伏申出た然レニ賊射江森
新子殿走公致九趣有某ヲ相違四五九通
子既相付九事ニのちも大將を猶之漏四殿
密に遂搜索するに召捕りて出伏せざる
相違九事

明治七年三月

内務卿大久保利通

菅原道軍の兵隊大村示隊諫早示隊
 二宮宮村出奔菅原所領込五宮又別領ノ通
 謝還ニ往テ崇寺ノ謹慎ニ在テ同進
 行カシム沙汰道ト曰クノ四座在テおお
 置カレ然ルモ賊黨ノ四相浦峰ノ中若四
 大區戸長ニテ致メテ下士族ヲ煽動シ
 要兵苦メ切取斗テ起テテ出陣地ノ賊魁
 にお見旦テ云云云云云云云云云云云
 僅村長ニテ御侍ニ及リテ云云云云云云
 於早ク縣令出仕地方官員出テ云云

ハ入心麻痺して人心安堵が致る爰
と存するが兵隊より人衆は比集るを以て
現今や用之るに大なる帰陳の致るを
折柄山口ヲ輔マシヨト書過し
其方出向ハ其マシヨト書過し
之器に余れ其悉皆受取出張る兵隊
今や護送陳早近帰陳の法方河地彼所
相談と云ふ也

鹿島山下出張

且及國治之節

大久保内務卿殿

此等ハ小隊を備へて當所におおせ

長崎縣管屬土族召募方兵
名簿正角添書

一 筑天隊番小隊二番小隊並 諫早右住土族

一 四番小隊五番小隊 大村右住土族

一 六番小隊八番小隊並 島原右住土族

右一大隊長少尉並備為之月十三日 亞院

相付許可こと召募致致五分

一 系二大隊之七番小隊 大村右住土族

右鳴系土族正角并召募致致五分 出區縣三隊様

呂莫方致九分

一 茅天隊二番小隊

長崎町民元振造隊

二 日三番小隊三番小隊也

平戸在任士隊

右山外勢少補亦当港出浪御旗也

二月廿六日呂莫方致九分

一 茅天隊五番小隊 八番小隊也 大村在任士隊

二 大隊外半小隊

本日新

三 大隊外半小隊

本日新

右後追下右大馬大村出浪也三月亦之

呂莫方致九分

一 茅天隊五番小隊

右練早出浪致警備兵麻島口進軍也

二月廿七日呂莫方致九分

二

右此船位要縣駿播有管縣令之屬士隊

右此書仕將之通也呂莫方致九分兵員列冊

右此傳及調之也呂莫方致九分

明治七年二月廿六日

長崎縣令七川原之

内藤郷大久保列進殿

廿一 大區 大長

佐賀縣 賦役 洪騰 我 官軍
 正 向 子 所 德 歷 者 年 以 亦 應
 違 之 亦 有 之 然 之 當 縣 旅 之
 中 之 亦 有 之 備 隊 但 之 亦 有 之
 市 街 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
 人 民 保 護 土 地 亦 有 之 亦 有 之
 縣 下 之 人 民 亦 有 之 亦 有 之
 日 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
 者 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之

去ノ冠後ノミナラズ以テ此キ際ニ年々ハ
諸人オモク惡キ口尾ヲモナシトホク件
ノ私情ノ以テ息指押ルルルルルルル
意ニ至リテ存ク奉裁受ルルルルルル
殆クモ振返ルルルルルルルルルル
交易ニ就テオモク惡キ口尾ヲモナシ
トホク件ノ私情ノ以テ息指押ルル
業オモク惡キ口尾ヲモナシトホク
件ノ私情ノ以テ息指押ルル

明治七年二月五日 長崎縣令 吉川 啓

佐賀縣高海川河口以外迄入

取持待船天幸丸出港

佐賀縣下高海川河口以外迄入

待船天幸丸出港

佐賀縣下高海川河口以外迄入

待船天幸丸出港

佐賀縣下高海川河口以外迄入

待船天幸丸出港

佐賀縣下高海川河口以外迄入

此世に海上に兵武加口より進軍して後將
番城に上進將校に海軍省に代りて
後で院に依りて定まるとし女月三日
海軍省に依りて天幸丸を省に用ひるに也
首を女月十日山井對勢に捕はるに
也此後院に現るに代りて女月十日
院に依りて現るに也此後院に現るに
也人賊造に其に依りて捕はるに也
海に上りて代りて其に依りて捕はるに
也此後院に現るに代りて女月十日
院に依りて現るに也此後院に現るに
也

未陳述女月十日申はる也

明治七年三月五日

志士と醫士と女月十日

内務省大久保外務省

先般夫率之政に懸念を以て縣下を治
 る地運に及ぶと道に權中爲義賊徒
 刑爲る程に宗日向地を四國地を流出ゆ
 べきに愛媛縣下官如島を急に教令
 出さる年以後に各別紙にて通中紙を
 出さるふに及
 ぶ有仕をたれと直に權中を爲るを賊徒
 踪跡あつたはり出さるる省下の各
 中甘里の地を以て收束する様
 中甘里の地を以て收束する様
 教令の旨を以て各別紙にて通中紙を
 出さるふに及

去寄知宮川為之
内務卿大久保利通殿

以急飛也中是然方亦在應之甲止之
る急飛也中是然方亦在應之甲止之
其出帆申付た急飛分進風之てあなれは
りも七帆出帆ありる船子あなれを
船待致た折物漁者亦洋集り沖推押
漁船者も亦十三日以前は道のりも
方候にお尋ひれ十五日前に土時陸
敵ル事四五里にて漁船を被派帆揚
通り致し船所客を食肥産産可即
能お尋ひた方中七五必ス賊卜客の事

長崎縣
此查川物清純水も當り我西名も此に下
海岸通り 佐賀ノ海近港近後浦
おびる年古きと出仕仕私を後川手七人
三日夜分四時迄西島七帆持刀すも
め急な月見候も早我を兼て途中佐伯島
に南りやまてて遠く漁船日向路に向ふ
帆ヲ揚げる船見當りて聞て急に此の
中より名類りて此船を下すは船路を
おぼすは波に如し船ヲ用き間近にお本
り私を此表に出たお舟尋ねて下波に
ぬれ

此船の子を私を以て必す此に知るを向心し候
此に帆ヲ十分揚げて去り是れ賊舟とせ
此針に浦船海航トお察し此に船路ヲ振
十五方より今より遠く天幕舟持出たお舟
方々を公に四圍より遠海ト被察し九併に何
方より此船に追ふ方お向へて知る方お
たやま先の日より如島ハ船渡りぬるに
休みの関り余りは者も此に候お答
る御然りて如多じら向馳船の波人決
しつた島に天十九知り遠く此に候

作泊浦の定泊船は十九の船とありて如くありて
 切或は帆を揚ぎ送る年はなる船は四の船なり
 多し近き内通りの折柄漁の船なり合を去
 十五の船より舟日四の船なりとありて如く
 おる船は多しははる年とありて如く
 致む水夫多し人出たりとありて如く
 此より如くありて捕傳せしる間も如く
 毎人を大躍り方懼れ天を仰ぎぬ因宗
 効を奏スル秋十リトお樂らる如くあり
 直に當り應徳士なり此家なり如くあり
 直に當り應徳士なり此家なり如くあり

子能思れは是迄して後歴に或るやあり
 多し出たり大に風波ははれ多しあり
 細当の境に押起る多し運賊出上陸あり
 海に舟を後に送る多し運賊別紙書如く
 子能思れは是迄して後歴に或るやあり
 多し出たり大に風波ははれ多しあり
 細当の境に押起る多し運賊出上陸あり
 海に舟を後に送る多し運賊別紙書如く
 子能思れは是迄して後歴に或るやあり
 多し出たり大に風波ははれ多しあり
 細当の境に押起る多し運賊出上陸あり
 海に舟を後に送る多し運賊別紙書如く

直江に上りて... 倭寇の害... 船隻の往来... 交易の盛衰... 地方の安否... 兵士の動向... 消息の通達... 諸君の御覧... 幸甚幸甚

捕侍... 直江... 三月廿五日

直江... 三月廿五日... 公海... 長崎

ちいさくわいしんりやうきんじやう
 心筋うまひしんりやうきんじやう
 世にひびくや
 別稱として城守如島名あり必り名は此所
 島名に三人は但横新所古田に三人は但
 之外浦所からるる平方に上人下人
 少名ともいふるもその歴所をいふに
 以前にその日十午前十時に出帆し
 指して出帆す
 七午の別紙をいふ事下りてはしる也

一

明治七年三月十昔午後四時六換立押切船
 去彼島守和島港に着船系の上陸否か
 船を出帆上陸の内三名は袋所島に在る
 不立止宿三名は横新所吉田に在る宿
 止宿双方宿多る宿を還り捕亡吏等ヲ
 之ヲ捜索せし或は為所を爲し仕立面該信
 爲出投其の力不審面已成徒に確證ヲ
 得ず然し明船出發の旨を賊徒に知らせ
 明アラス一度船は只三日間大強手事ヲ圖ラズ

一 于夜節方心緒急便ヲ立本所申伺メ
翌年六月未明彼ノ徒發覺セシトセラ出強ク
逃去シ出知方向苦慮身同ノ受別記
姓名書ニ通リお多捕スヘキノ證ヲ以テ
控儀ノ旨アル者數日留シ候申渡一租
十ニ取服セシ一租ノ殿ル不平ヲ唱人民束
縛理ナキヲ申着方ウ宍名易ニ服セス足捕
得様ト已ニ恐ニ折柄彼亦友ノ形氣ヲ
察シ返ニ承服セシニ因リ別様宿ニ獲返
シ候條ト下虽モ迫蹄スレハ密テ逃亡セシ

事ヨモシ外後ツ急ニ心締リシニ昨夜衣
類荷物も逃リテ未殘置置あ人休手他出
セシ趣音心締者九跡ヲ察搜走スレ凡
夜中逃リり夫是之ヲ四方ニ分配船揚市
街ノ隈ニ多錢搜トモリ跡ヲ得ス殘ニ衣
衣類未取レ賊徒確證ヲ得タリ益
逮捕セシト土佐街道天湯街道等數口
心分派セリ

一 四十七。夜土佐街道吉野ニテ凡審シ徒三
名ニ追付出テ捕縛スヘキ若ナレサ以テ夜脱

走つニテ右ト、ホ遠徒身為夜吉野
由宿スヘキ申申物代役、家室止宿セ
大前夜コニ徹ニ徳一層四層テ衣締捕
得、シテ不虫浪所、掛合越ニ跡ニ彼徒
又ホ腕脚セリ、家室縮、白影ナリ是モ長
ホテ善方百方投索ス

一
同日夜土時以口街道相凡ニ羅率一名
ト所ノ者一名、搜索ノ折掛賊徒一名、虫途
ニ由ニ捕得、掛リニ交彼レ長カヲ殺是
コクモ、惣カニ替々、出我両方ニ溝中ニ轉倒

セニ、方、概ヲ為員、其得、其被願、長カニテ、右
ヲ支、近穿ル、不能、遂ニ彼逃亡スルヲ、救町、追
掛シカドモ、闇夜、俄彼、引路ヲ失、右カ
然セシ、所ノ者ト申ハ、元手先ヲ勤メシ、面、左
男ニテ、雇人ニ、稀ナレ、働コナシ、自分モ、左ニ、指、為
手ヲ、負、入、マ着、用、ノ、ト、敷、ケ、所、カ、腫、ラ、受、取、髪
マケ、際、ヲ、切、取、セラレシカ、尻、草、ニ、重、傷、ヲ、請、ス、和、速
捕、ニ、指、サ、ル、前、路、接、逢、持、々、搜、索、ナ、セ、シ、行、方
不、知、何、ト、方、年、前、弟、十、時、ニ、忍、捕、ニ、史、羅、率
等、出、法、所、ニ、隔、報、ヲ、右、行、ノ、以、予、平、成、連

知島三村通花久多由是亦六二層及
其可成歸於合三河海也
右成行由守阿百申也

愛媛知島出處

七年正月九日

權左衛門右衛門

少尉 墨川 勉

字和島三村阿三河口實書

東京第一支區四區谷サメカ擔任

加藤方助四十歲

晴井重徳郎 二十歲

安井五八 二十歲

右三河通花久多由是亦六二層及
其可成歸於合三河海也
右成行由守阿百申也
知島三村通花久多由是亦六二層及
其可成歸於合三河海也
右成行由守阿百申也

入道殿所共自其用方、社中中村勤ヲ
尋ト云

宮崎縣元氣肥ニテ吾國ノ昔國長

依之系一也 士族

山一西一ニ多

山一也 二千多

平山兵助 二千少

古者古知能岩崎ナル者ヲ尋口外越ニト
七年自月廿七ト浦出帆所、港ヲ經テ口立
口字社是着古岩崎、用アルハ三ツ川會社之

儀、自テ年ナリ、穴一也、内所括書、寫
鎮、兵隊高、此營致、其身疾、雪耳フ
掩、可ラサル、務、急、急連、即決、戦、方、
名、寺、お、お、也

二日、午、午後、其、時、中、記

再、在、白、川、知、田、也、此、處、之、昔、年、ハ、一、先、回
為、營、社、來、以、是、和、文、之、傳、其、及、至、隊、下、回
お、後、上、迄、所、至、其、終、處、也

又、別、也、

已、刻、高、洗、道、子、之、中、上、其、場、共、お、
三、高、系

長山縣

戰爭事各若邊之方一見水見合之其水
在野之故一折之亦沙也此其也

二月十四日午後十一時

再警一五也隊中隊捕待人而後送此其
出別及隱可出米者之其得共亦文之其
今夜之其又歸營之其城中其軍

本呈漢公軍源烈其將舟益其居壯被
其亦其其其力大其其住其其亦其亦其亦其亦
二種其其情其其去月其其其其亦其亦其亦其亦
其亦其其其其其其其亦其亦其亦其亦其亦其亦
其亦其其其其其其亦其亦其亦其亦其亦其亦其亦
其亦其其其其其其亦其亦其亦其亦其亦其亦其亦
其亦其其其其其其亦其亦其亦其亦其亦其亦其亦
其亦其其其其其其亦其亦其亦其亦其亦其亦其亦
其亦其其其其其其亦其亦其亦其亦其亦其亦其亦

長江縣

本米以儀府古抽并江口大屬三台以
社中及商地本商之儀古也亦台之意
子配可仕古亦之事也少以散錄以申
字可也亦以古以少友亦亦亦得亦
信之者之亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
出亦中一存以亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
以儀古年有古
古以亦亦亦

谷少將處

好是郭志定之江到能下存亦相臨
其出出兵之怒亦如何之亦亦亦亦亦
其出出兵之怒亦路何之亦亦亦亦亦
甘亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
所亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
港之地有亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
港之亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
機之亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
港之亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
港之亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

長江縣

今わに... 武... 武... 武...
五...
(seal)

第八函長

今般依... 况... 兵...
テ... 可... 權... 校...

明治七年... 高...

已自來依其氣其屬其沸騰不極景
 况之方至此趣之度之般口如岩飛權
 令赴任一日隨西德者為一夫隊守月
 高日出兵於東其能之古德於其化
 不日已煇後之者以操之氣不日為日立
 余毛美斗小柔若之足字乃其之歸海
 字外之平不害之者之子之可許出其民
 能之急揭示其區內身之漏布連其
 事

明倫彙編

七情類事卷之四

名臣類事

本月初旬自休矣初搖首自為搜索
 指遣至其官負運之海如公如探案也
 通存別亦流所屬中其言在案也
 系勿方之及去去九日退身景况既
 激動勢方毛也其受法法其出立未
 報急于得俄然能定之安即喜之生
 上臨撫隊卜其之種之義兵之役之征
 公之至子及海軍一暴初之之時八臨
 告之不候也

三原可致与申留其由

此物... 七年二月... 兵部長... 希望... 奉... 七年二月... 兵部長...

大臣... 兵部長...

今十七日... 兵部長... 奉... 七年二月... 兵部長...

爲中... 傳... 出... 令... 傳... 奉...
... 出... 令... 傳... 奉...
... 出... 令... 傳... 奉...

才一大函

區戶長口

之... 景... 括... 爲... 有... 爲...
... 景... 括... 爲... 有... 爲...
... 景... 括... 爲... 有... 爲...

三...

一番小隊

司令

山口新一

副司令

山口備助

小司令

西山隆太

小司命
古賀 誠

五十二

五十二

五十二

五十二

五十二

小司合

古賀 誠

二番少隊

司合

長多信平

副司合

高柳也之助

小司合

山口忠常

諸能又幸之

王 八 九

二番少隊

司合

長多厚平

司合

高柳也之神

小司合

山口也師

諸能子也

三 八 九

三番小隊
副司令
子田忠久
小司令
若塚省三

三番小隊

副司令

子田忠久

小司令

若塚省三

三番小隊

副司令

子田忠久

小司令

若塚省三

尚令
東林軍

札

加口山隊司令
常井邦衛

外之務人

右和口山備之日其後、向者之
為以、系留之、在出、了、物、印、指
揮、之、事、也、

了、了、了、

日移和之
須永平

岳以春事殿

力伴副平長一、款、中、有、州、添、五、者、也、

三、奇、

明治七年二月十日

大村公張先

中樞女屬



須永中屬



女卷事

女は日出し教養に達せしむる也
由富の災害ありて全國士民若くは
征之上 朝言の傳はるに下萬女
土炭ノ苦被免ハ知書力ヲ得ハ佳民
ノ教養ヲ俟海船ト雖老若婦女

予ヲ移置爲田家出兵セシテ歎スレ
至情感スレシ余ヨリ右出兵欲同區
中令保護スレバ別人ニ相互ノ義務
トモ有知何之上ニ計不事切也
コトニ君若ク陰達、下家不爲予、
及約抄支ノ事知制約俾才少張
先立計ヲ以世ノ道及指令置山位
此若持命ニ即置事也

伺

成不_レ信_レ應命士_レ殺出兵仕
非_レ東婦女子ニテカ事_レ不
行_レ角言_レ以_レ中_レ動_レ了_レ休_レ中_レ出_レ此_レ分
由_レ此_レ中_レ借_レ婢_レ旧_レ方_レ打_レ傷_レ内_レ半_レ民
コト_レ了_レ了_レ使_レ了_レ申_レ方_レ御_レ下_レ命_レ被_レ了_レ者
去_レ好_レ料_レ借_レ去_レ了_レ年_レ上_レ同_レ於_レ家_レ也
料_レ去_レ了_レ年_レ四_レ同_レ於_レ家_レ也_レ新_レ以_レ也

二佳主ヨリテ
幸門候以上

中士大區初長

中士大區初長

寫水須長

林三九百以

一德少長以

此方久長

中士大區初長



須永中腐殿
中橋少腐殿

才方南何書之
臨刻
鄂園次中
中司員
了方及申
此常果

老體婦女子子之向方以
區內想像之通之置信急
保後改之執了之計身

二月五日

大村出張

須永中三屬
中橋少三屬



易口研屬
若松七研屬
海田備順

右降時心納日同交
赤島一
赤島一

部村中屬
稻田延秀
臨谷乃大

三交寄

長西

長安縣

多田村
中村
村
尾

石中管台賦

淡井貞亮
井之義雄
北村汝之印
河合吉之印
於山信之印

石中管台賦

印村中層
須井中層
中橋少層
山川景山北
之山景山北

石橋對賦

長安縣

等之、後、之、の、海、軍、者、途、急、以、回、本、
の、大、村、為、急、而、家、族、中、去、一、改、以、之、難、
志、水、東、急、也、及、廣、也、他、今、急、也、也、也、
四、村、の、者、中、之、急、役、也、一、事、也、一、事、也、
リ、之、後、中、屬、抑、制、了、也、也、之、也、一、也、若、余、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
朝、者、者、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
君、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
ケ、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

長
寄
系

長
寄
系

長
寄
系

又不知世好任中何物以斷乎一辭否
者謂之氣緩而得然之海而安世
次之世安之世其地之士精操之
徹於以之統書力是又曰時之理也
也信其往篇志世絕一生欲以之
也其世也 是今一也一也編其
念之其世之外則世之向也其世
也其世之中世也其世之中也
編輯之也其世也其世也其世也
名其世也其世也其世也其世也

也其世也其世也其世也其世也
也其世也其世也其世也其世也
也其世也其世也其世也其世也
也其世也其世也其世也其世也
也其世也其世也其世也其世也
也其世也其世也其世也其世也
也其世也其世也其世也其世也
也其世也其世也其世也其世也

甲穆和之

須永傳

世好集卷之四

[Faded vertical text in columns, likely bleed-through from the reverse side]

順治七年二月十六日

大村清子

中村屋

須永中磨

卷事

丹之偏呂莫所出語先可手瑞子
而之遠之執其心也為如信置
少信一



長崎集

一 長崎の港は其地為貴人
 多し其の由一海を以て終るは
 一 區戸を別し格敷く其地一也
 區敷く一あり以て其地一也
 長崎の港は其地為貴人

一 某年... 同... 年... 月... 日...
了... 事...

但... 事... 年... 月... 日...
...

二 某或... 不... 托... 事... 終... 業...

...

一 某... 事... 中... 後... 任... 事...

...

但... 事... 年... 月... 日...
...

一 出... 事... 年... 月... 日...
...

附錄一 終下 終事

時傳如終方一海六前如自高之

及之如金名格費一白可似辨

下事

一 後如のべルル各ライツ見 不為

后 事之此律

一 本局到者之上院地 活事

之長子 經子 活事

長
湖
集

長
湖
集

漢人探訪

...

...

...

...

...

其地午前五時適為逢午午後
十二時三十分大村由着五松才十
左邊由臥許下命之波戶長
相違五番迷已暮之五松才
何名曰區之人少多日令官人
榮人探訪十二大區古屋

戶後同汗子後六時此則名道
已為之運上相或五存極或
陳子也也也也實中官才相按
初八時比了又諫早出法可任
為情或也天十族天一里或一也
亦以運陽其至然也何多為深了官

台多事也天是也天今腕子後五
六時進之天也張任女估聖縣之受
為多為早名身一也負其內即死
十名名岩村之兵一不殘討死中
法在也也樂也也也也也也也
也也也也也

一曰天村漢月之儀法如望之成山
 之之極索連自四五名氣之體律
 殊之能自之回城下止如始終之
 極之極索連自四五名氣之體律
 殊之能自之回城下止如始終之
 極之極索連自四五名氣之體律
 殊之能自之回城下止如始終之

一曰天地之儀也凍旱之性也
 道之通也
 今之為人
 此後一
 一曰賀

今年夏月所行
運言信必佳矣

一法如公同道入送
柳川之海島蓮池
之風中之夜

志之傳之乃敢
請中上之也

大村忠張士大區。

七年二月十八日
大村利喜

先後八時格

長崎縣兵頭長平殿

今取驛得兵隊屯集於官本
 四夫匠沙直其子能於整年
 况今日十日送~~成~~濟遠成
 為盡作柳十大匠一感詩又
 之輪內之阻事四里也孫十
 少送氣為念沙乃上上也

方寸大造戸名

岩川文太



明治七年二月十日

兵部大臣事務局

二白大 兵部事務局

警備隊中集所より前四大區工連
置り延令十日十大區、更にお達し
四区令を解し、おのり、推考スルニ
全ク集所より、傍り十ラカ右、より前大連
より、四大區、より、日確、より、カ、
より、四区、より、及ヒ、
明治七年二月十日、長善、
方寸大造戸名

岸川文太

長崎縣

於以本文十大區... 藏會... 書翰... 印
此... 通... 力

長清

以百... 揚... 義... 知... 中... 以... 得... 夫... 年... 矣...
高... 深... 潤... 律... 抑... 以... 間... 善... 交... 以... 對... 夫... 後... 何... 所... 也...
善... 交... 善... 以... 以... 以... 及... 以... 善... 善... 也

中... 七... 年... 十... 月... 十... 日

長清



長清

長清

才三書
世者

設言備隊之義每日午申才一時ヨリ
才四時迄於方是所長其砲隊所集
諸練云此位也

明治七年二月十九日 警備隊

才一二三隊

能都心

有者

長崎縣

明七、八年二月廿九日

中、下、五、陸、海、陸

美之妻

至之傳局

監生

本原の舟に逢ふ御成仕当羅瓦
し逢ふ原相遇流し一お渡至
し逢ふ原相遇流し一お渡至
し逢ふ原相遇流し一お渡至

長崎縣

長崎縣

長崎

砲隊比集所於う毎
録傳少少採取
趣少少子少
二月十九日
警備
中

長崎縣

長崎縣

今由警備員署方村...
借由...
...

二月十九日

長崎縣

地

...

長崎縣

長洲縣

Table with 10 vertical columns and 1 horizontal header line, mostly blank.

多禁檢區深町高口
 申付方々々々々々々々々々
 以辭令々々々々々々々々々々
 病人有々々々々々々々々々々
 檢証交實々々々々々々々々々
 七有々々々々々々々々々々々々
 三月十三日
 警備局
 中

天時

長崎縣

三才集

Blank lined area for text on the right page.

前以中藏有政由之書言病
人方之在運所書者中
也之方之極好之山故申之也

通二三原

造一教

三才集
卷之

三才集

[Blank lined area for writing]

請工人旦請裁より使し者

多しと申すり或は節の可く

有り候し候し候し候し候し

候し候し候し候し候し候し

候し候し候し候し候し候し

二月

三三三

三三三

為云備

以中

諸官負年 諸人學門出入
者三命 離於之 鑑和相渡至
及口月為巨得 離於相添 無啟
乃法通也也

明治七年二月十四日
力三三
教言備狀

監督年

此言備保世學工請日夕
 學今の年通り下り者ハ官其或
 諸工人懸別徒雖形の道鑑取取
 子は者ハハ斷遊言備保言取取
 の年々有法ありの由道ヤ多ク
 因テ、鑑取海方ノ交遊言備保
 二兩耳ハ此流ノ由道ヤ
 二ハあり 此言備保
 諸保の中

Blank lined area for writing on the right page.

非常不存，時以聽之，進退之
 自正，存而不知，亦不知其
 力，遂以言，遂中，其法，遂
 二月十九日
 才四五
 道智

北村 海平	石才一二三隊	二十九年	可産	杉山 直多	石才四五隊	二十九年	稲田 運秀	石才四六隊
-------	--------	------	----	-------	-------	------	-------	-------

長安縣

丁巳年九月

長安縣

長安縣

中不事信

右才一二三隊自為城守

丁巳年九月

并戶義城

右才一二三隊城守

丁巳年九月

長安縣

山寺名

右才一二三隊城守

丁巳年九月

長安縣

長安縣

長興縣

Faint, illegible text in the right column, possibly bleed-through or ghosting.

湯口中... 道... 由... 族... 三... 依...
 加... 為... 素... 出... 者... 立...
 甲... 付... 密... 招... 少... 人... 以... 自... 人...
 和... 地... 不... 其... 教... 途... 中... 立... 向... 為... 物...
 有... 轉... 來... 能... 之... 亦... 符... 為... 族... 為... 族...
 寸... 不... 主... 元... 系... 地... 之... 先... 系... 之... 符... 為... 之... 通...
 由... 及... 以... 或... 之... 族... 符... 為... 之... 入... 四... 符... 之... 方... 向...
 出... 也... 我... 我... 一... 由... 且... 是... 是... 回... 方... 子... 方... 向... 三...
 告... 符... 我... 者... 之... 族... 符... 為... 之... 四... 符... 之... 族...
 之... 族... 符... 為... 之... 族... 符... 為... 之... 族... 符... 為... 之... 族...

長興縣

七年二月十九日第四卷

卷之四

監督

監印

實代出役也凡有役者必由新成局
 監印海陽氏營口在營林申村
 直清臨田延秀分在後切器概
 浮以年牛代一切之海物及概木
 人事務、長事、凡有役者必由新成局
 監印海陽氏營口在營林申村
 直清臨田延秀分在後切器概
 浮以年牛代一切之海物及概木
 人事務、長事、凡有役者必由新成局
 監印海陽氏營口在營林申村
 直清臨田延秀分在後切器概
 浮以年牛代一切之海物及概木
 人事務、長事、凡有役者必由新成局

急之即守令道守致地出兵
 之腹即乃略者立之於此
 之時深之氏器掛之候之費
 掛之腐之方以分被能致於
 此亦在更之候之目字強延之
 形勢方短了以之軍事有力
 了此上ノ意見確立現象以糸
 用為掛被命出隊及中延中
 各是与人共出事務中用而
 之相之也

掛ノ内有人即懸機是又同一
 即下命之也此亦云之強而
 豫ノ機位之由掛之候之費
 定是也之即強之費之費
 効強費在令之不信何也
 以之也相何也也

州縣

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

牙四百四十八

当时向差夫上得两地轻便御夫日见
 此生他地陆腹之前出張之致言蒲兵
 時之由及身向問知公以事時向也
 夫之候乃能形之印繼不持之及是
 屋底不限通行也又寸之持生也
 通達是是之持致存以限持打合
 五之心及一

二月廿日

出張所



明倫彙編

無善可為

卷中

追由永昌碑子因將印鑑在致平
善於其子法系心切至為一子



郵便物本道以「物」體札者係
幸而「見」今有院「中」亦為
存「下」其「條」可、其「物」家「就」至「各」戶「下」
於「其」之「東」原「因」以「檢」物「中」先「
而」此「亦」一「家」其「由」無「年」且「而」其
今「也」

七

家

無善可為

袁綺孫

揚州府
揚州縣

唐 作忠申上及

今設作質縣貴屬不平抱不穩之
景樣可追濟固之場合立至附
而志如為多士族之席佳且
御當縣下少如在斯之古交情臨
坐視傍觀佳如多古所謂尸位
素餐奉對

長河縣

天朝恐入汝才之什碑為月御忠節
仕於民間漢所其他似合一守使
才者之度世股仗而奉歡願以上

明治七年

二月五日

才一大區三小區西所
百字及部十年元
新川縣才九區下二區

富山縣
士族

長河縣

立願正懿殿

廉卿和繼



前書一通書領長河縣印仕是也

橋區長

本下後七部



第一大區

堪州縣

平恩中上

今設佐贊縣賞屬若平抱不穩
 景樣身進河固之場合立至附
 百有知第而士族之席住且
 沛書縣下亦在斯之支情臨
 坐視傍觀佳右亦者所謂位
 素疑奉對

城山縣

天朝志入後身之任 碎骨碎心忠節
仕及身之僕御 其他似合所使
方者之被世殿仕奉 奉歡願以上

明治七年
二月十九日

才一大區二十六區西上所
百六十九區內所
新川縣才五區十二區
富山梅澤所
士族

長崎縣次子年其願正懿殿

麻野和園



前書一通寺願長身之印仕也

橋區長

山下後太郎



第一六區

掛川縣

第一卷

大村之儀

若水寛吉

石橋 奇代 伝

辻 野 丈 平

古 初 年 百 五 十 餘 歳

一 人 也 其 人 之 行 迹 亦 不 詳

也

明治七年三月

活 卷 概



三ノ河原

掛州縣

長火縣

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

在形口書元

事務課

一 移去去申九、山存、今年、受持之令業
 八卜口、海堀、合業藏、入、今、今、受、持、系、
 中、才、有、月、子、山、深、耕、新、第、一、年、正、人、
 ヶ、一、不、分、買、積、之、八、卜、口、檢、二、系、此、交、右、
 同、藏、入、運、送、此、交、在、所、自、此、取、以、存、在、
 上、六、心、道、

掛州鼎

明
正德七年
十月二十一日

長壽縣丞事老彭公誠嚴

浦上臨鏡地淨多高
者以才一印



詔官員各詣天門通符
之書者三別帝能於之鑑札相
渡者多多月為所心得能於相
世及及保通道也

正德七年十月二十一日
彭公誠司

才三三像

監督印

長壽縣

掛川縣

掛川縣

三百五号

三百三号

三百二号

三百一号

麻見郡

同縣

上野武尊

石田幸清

池上四郎

麻見郡

池上郡

同縣

麻見郡

上野武尊

石田幸清

池上四郎

池上四郎

三百五号

三百三号

三百二号

三百一号

掛川縣

掛州鼎

三百六号

朽木縣

仁科信明

三百七号

麻尾縣

佐多直中

三百八号

山口縣

板田賢茂

三百九号

麻尾縣

小川博明

三百四号

佐多縣

武富元平

百八拾三号

山口縣

赤塚孝蓋

百八拾二号

敦賀縣

森村三也

百八拾一号

朽木縣

野崎義一

百八拾四号

佐多縣

野田頌宥

百八拾五号

山口縣

野田豊一

百八拾六号

山口縣

大塚琢造

百八拾七号

山口縣

久松莊一市

百八拾八号

徳庭屋徒者

白竹正玄

掛州鼎

百八拾九号

臨海四位使有

谷 三波印

百四拾八号

伊豆縣

重松本吉

百四拾七号

三浦縣

栗田幸平

百六拾八号

高知縣

伊原盛丈

百六拾九号

山口縣

夏 好静

百七拾号

赤見郡縣

崎坂信房

百七拾壹号

山口縣

厚知重義

百七拾貳号

山口縣

总谷直正

三百拾号

福坪權少判

三百拾壹号

中乃權中判

三百拾貳号

川崎權中檢事

山口縣

三百拾三号

三宅新十郎

三百拾四号

山口縣

山田重平

三百拾五号

山口縣

小林順次

三百拾六号

山口縣

額戸山權平

掛州縣

二百拾七号

廣橋中判事庭有

山形幸助

二百拾八号

櫻井權判事庭有

白月来去

百七拾九号

廣田源縣

柳田零說

百七拾六号

口縣

赤羽友好

百七拾七号

敦賀縣

妹尾義友

百七拾八号

麻尾源縣

祁對院包承

百七拾九号

東京府

高橋定一

百八拾号

青森縣

貝休成光

百二十九号

廣橋縣

尾川秀

百三十号

同縣

小田敏史

百三十一号

同縣

竹下禮高

百三十二号

大板府

安藤

掛州縣

百三十三号

唐富縣

依友信義

百三十二号

園田岳賢

司道者

百三十一号

海野熟史

百三十号

番川景任

百二十九号

増田徳凡

百二十八号

藤部純

大坂府

百二十七号

山崎笑三郎

依安縣

百二十六号

鏡美清茂

百二十五号

大江進

百二十四号

市田正一

百二十三号

小島庄市

百二十二号

上村政我

掛州縣

百四十二号

牧 大藏

東京府

百四十一号

島 從四位

百四十九号

因 大和守

佐賀縣

百五十一号

相良 侍從

百五十二号

石井 從二部

百五十七号

大久保 奉高

白川縣

百七拾三号

白木 為直

百七拾四号

福原 孫左衛門

司法省

東原 順吉

大坂府

後鴻 德基

白河石南縣

縣 出張 中出 中出 中出

中出

掛州鼎

右者今十一日午前六時入港郵便船
便之在船之者之少也

明治七年一月二十日

通事長

杉江満貞



分
答事

介候係



機械之類相運以修運多社
ノ三ノ年ハ船以届岸而是外也
ノ交運人未事人宛相葉ノノ交陸
業ノ向也

印送案

之強信好守中層大石安易水業

長崎縣



乃七官之來，以指河山之身，以當好
內務備之指，中身橫機亦運送
言人來入用，以乘各區內村，
宜區一割，而予一大區，而中人宛
腰之款，物亦至，而各款，應一物出，
在日之交，為汝之款，人來用，意
款于物，亦之款，以法計，以新能
相也，也

書函為全宮之序之

第一第二第三

人來指出日割

二月李 第一大区

二月李 第二大区

二月李 第三大区

區人土以考人宜相係之物出也

掛川縣

掛川縣

參備隊也後

日見街道本河内郷

赤瀬寺

西山街道西山郷

萬壽寺重吉印

参備隊休息

馬

中山寺

淺田耕平

長崎

東洋 瀬宗 舟 時
同包海吉

此表... 船中... 瀬宗... 舟... 時... 同包海吉

三 奇 系



第一 函言備休息而
島多可
第二 清田石
船大五兩
第三 森中石家
濱所 砂利石備
第四 度波石備
第五 吉原石
馬所 共原石
第六 新橋石
大黒町 板橋甲石

中山
石橋
石橋
車取さく

休息所石家
大黒町
石橋
石橋
石橋
石橋
石橋
石橋
石橋



海山嶺 白雲寺 舟雨之
出船多 舟雨之 舟雨之
舟雨之 舟雨之 舟雨之
舟雨之 舟雨之 舟雨之
舟雨之 舟雨之 舟雨之

傳單一

ノリキ 一ノノニ年

舟雨之

舟雨之 舟雨之 舟雨之
舟雨之 舟雨之 舟雨之
舟雨之 舟雨之 舟雨之
舟雨之 舟雨之 舟雨之

舟雨之

東中町 鳩屋宿

佐賀縣

宮口 富何某者

全
 卷二
 長崎中の各一病舎ハ 醫者ハ 均等ニ
 下中ノ方面分 医病院 亦 諸ノ 醫者 其 名
 未 備 者 亦 病院ノ 可 醫者 其 名 云 相
 引 也

醫者均等

病院均

詰表均

醫者

長壽縣

古尾新齋

大國立園

水海人

水人

醫會辨合案

大國立園

古尾新齋

右者致三像似病院存治掛申付

五事

山字通下石中崎縣

長壽縣

長洲縣

利便の術、亦道に如く、右順次文書
之類、今其の所、或は中、今世の差、或は
之の術、今其の所、或は中、今世の差、或は

長洲縣

長崎縣

縣廳門衛ト之テ
善後ノ内母馬ノ取ニ
仕方由テ印テ事

監官備後守

明治七年二月廿日 宮川 勘

長崎縣

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

長尾景春

七年二月廿日

令

参事

常の左邊に設け置け

定門番二人 設置置

内一は是も 交番ニ充テ半

門ヲ鎖シテ後別々切付テ

属兵由テ分テ二人に交代

ニ充テ半

庶務係

但し和服に充テ半



一
午前八時開門午後八時閉門
長興縣
保甲結末者不為番手抄改ノ字
門書ノ目と後由リセムル事

警備隊監督工

縣廳川衛トシテ各隊之内至重ニ在ル
為修知事ノ事

明治七年二月廿日 宮川縣令

長
山
興

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

治
原

少
年

右
治
原
少
年
之
學
記

七
十
二
年
元
月

昨日先方隊と本親隊は早合三ヶ
をとおし内於るお大本日安在中交共
成り候と申す交書申す中安器機出
中安器機出候と申す候様候と申す候
及安器機出候と申す候

七月二十七日

長崎の所

砲隊

中

長崎

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

長崎縣
長崎市
長崎

Handwritten text in a grid format, likely a ledger or account book. The text is written in a cursive style and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. The grid consists of approximately 10 columns and 15 rows.

口口口

一初儀中月十日日法高初力初用
身執者名氏 少年 風物 古歌 湖
以口使字法口打梅 時今 近形 表
西半 自然 由表 意之 由用 之 力 在
由表 之 由表 之 由表 之 由表 之
之 由表 之 由表 之 由表 之 由表 之

長崎縣

奉 伺 上 以

諫 卓 士 族

桐島
松本 芳如 芳吉

明治七年三月廿一日

德永 傳 也



御 分 廳

今般 敬 旨 備 隊 假 病 院 療 治 掛 被
仍 付 發 者 以 清 奉 申 上 依 以 上

明治七年二月廿一日

大園 立 圃 友

長 崎 縣

(Faint, illegible handwritten text in vertical columns)

火藥

拾遺目

者名多物大炮之火藥備身...
行之高相備...
之現名...
...

長
安
縣

Blank lined area for text on the right page.

記

一少荒潭
我肢
五
人
步

丙
辰
年
二
月
廿
六

江
蘇
省
蘇
州
府
吳
江
縣

周
慶
一
百
五
十
年

長
安
縣

長山縣

山陰縣

商

山陰縣

山陰縣

山陰縣

山陰縣

商

山陰縣

西陽縣

商

富田縣

右等外一等由

羽

長崎縣

長崎縣

商

甲能榮二

長崎縣

長崎縣

石等外口等由付候事

明治七年二月廿二日

長崎縣

Blank lined area for text on the right page.

等外一考

富田秀三

警言保城由付候事

明治七年二月廿二日

長崎縣

等外四考

甲能榮之

警言保城由付候事

明治七年二月廿二日

長崎縣

長崎縣

Blank lined area for text on the left page.

長山縣



接津河

二宮良逸

警備隊後病院療治中付候事
明治廿二年二月廿日
長崎縣

長崎縣

ジノミ知拉^九也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

一ノミ知拉也

00,

450.

一ノミ知拉也

海計乞之方九拉之方七拉之方

之二三高江平出云々一月上之費
凡種可以書海之方以海之方

同同 徒徒 徒徒 徒徒
徒徒 徒徒 徒徒 徒徒

其隊引揚方歲所

鴻田屋上轉管申有

多系抄段可相心得

矣事

後七年正月廿五日

弟二天隊二番少隊

三十一

隊長年

長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

中ノ南	中ノ南	中ノ南	中ノ南	中ノ南	中ノ南	中ノ南	中ノ南	中ノ南	中ノ南
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

三三

日向

三三

長崎縣

多日秋...

長...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

第天隊三番

同八番

第天隊二番小隊長

日三番

日四番

今般第大隊八番小隊內半隊茂

木村張申付候而支自今西山口

出中港内巡邏并縣庭門

等取...

...

治云 二月十六日

峯 長 云

山 景

二月九日

冬

至 冬 海 樹

市 戸 兩 隊 七

生 有 隊 審 號 之 寂 之 於 海
本 營 之 長 之 友 友 友 友 友 友
書 七 省 卜 和 達 羅 多 友 友 友 友
三 云 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
勿 卒 道 卒 事 存 自 自 自 自
為 小 初 量 之 於 友 金 飯 之 於 友
之 之 之 之 之 之 之 之

長 崎 縣

地無所興

書中果

此字之由來所以如此也

位本方者語成回存

李之字官一戶也

其詳林台聖言傳白

Vertical columns of faint text and red seals on the right page.

日見口也

才一不傳

七番才傳之長

長後中一也了物者

天止驛の後事

此後事也

聖言傳白

Vertical columns of text and red seals on the left page.

長火照

長火照

貴人

行周和部

存機載五級言者心得身

亦能以遠達中世之

終後亦示隊

卷之二十一

瀧守作傳

長火題
瀧守作傳
長火題

長火題

長火題

七年二月六日

長火題

精重繪畫五部其強達之必多其意
多也即月之多其為下第一通也
全和每必以以和也也也

春日宗信

才二大像四香也像四名之常以石籙堂
係其子之有以石籙堂

井原清光

長火題

才二大像八者中像也各三節右輻重
係云ありりりり

才二大像二番中像輻重係云ありりりり
今村八郎

海辺 噴

才二大像三番中像也各三節右輻重
係云ありりりり

久代 陳

才二大像三番中像也各三節右輻重
係云ありりりり

瀬川 季定

才二大像八番中像也各三節右輻重係
係云ありりりり

山中 真臣

才二大像二番中像也各三節右輻重
係云ありりりり

長崎縣

Blank lined area on the right page.

第一左條

以馬少條

長洲縣志卷之四
藝文志
詩
長洲縣志卷之四
藝文志
詩
長洲縣志卷之四
藝文志
詩

五方各道臣等下
獨の用之其城
守之也

七年三月

馬田

一厨

長崎

Blank lined page with faint bleed-through text from the reverse side.

長崎

Vertical text on the right edge of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

Vertical columns of calligraphic text in the center of the left page.

Vertical calligraphic text on the left side of the central text block.

Vertical calligraphic text on the far left side of the left page.

Small vertical text at the bottom left corner of the left page.

長崎縣

長崎縣

西口
西口
西口
西口
西口
西口
西口
西口
西口
西口

佐賀縣賊徒降伏
日召募此輩
此後可安達
長崎縣各道
長崎縣各道
長崎縣各道

長崎縣

長山縣

長山縣

依... 緘徒... 御... 証... 付... 之... 爲... 之... 發... 軍...
 未... 追... 擊... 未... 成... 亦... 變... 緘... 徒... 謝... 罪...
 申... 出... 既... 依... 如... 律... 以... 棄... 取... 以... 牙...
 殘... 孽... 捕... 獲... 之... 通... 以... 爲... 至... 之... 交...
 然... 是... 在... 亂... 緘... 徒... 不... 少... 自... 爲... 不...
 潛... 伏... 之... 以... 罪... 申... 以... 反... 見... 亦...

以尋所押之新出之白紙至少許
之也

明法古也

美一乃張
書可張

聲傳白

所也

佐賀表長今多平定賦射之者其
所以照是之美遠無之者曰務者
官有通達之術之可也地抽索
方粉一層層層之何也

明法七年三月三日

須知中厚海
大伴利壽

名色

長高

佐賀表在^レ年^レ定^レ候^レ付^レ各地
 百^ノ莫^カ力^ノ解^ル隊^ヲ長^ト大^ニ久^ク保^ル也
 内務^ノ即^チ幸^ニシ^テ決^シテ^ハ月^ノ保^ル也
 茂^ク糸^ノ右^ノ所^ニ出^ル長^ト故^ニ言^フ有^リ御^下排^ス
 申^ス候^ニ別^ニ紙^ヲハ^シテ^ハ可^ク以^テ申^ス平^ニ
 差^シ出^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス
 方^ニ出^ル了^ル事^ト也
 此^ノ旨^ヲ備^テ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス
 此^ノ旨^ヲ備^テ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス

長 塔 殿

佐賀表在^レ年^レ定^レ候^レ付^レ各地
 百^ノ莫^カ力^ノ解^ル隊^ヲ長^ト大^ニ久^ク保^ル也
 内務^ノ即^チ幸^ニシ^テ決^シテ^ハ月^ノ保^ル也
 茂^ク糸^ノ右^ノ所^ニ出^ル長^ト故^ニ言^フ有^リ御^下排^ス
 申^ス候^ニ別^ニ紙^ヲハ^シテ^ハ可^ク以^テ申^ス平^ニ
 差^シ出^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス
 方^ニ出^ル了^ル事^ト也
 此^ノ旨^ヲ備^テ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス
 此^ノ旨^ヲ備^テ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス候^ニ御^下排^ス

長 塔 殿

白見取
 身
 羅
 卒

四六六六二六
 人人人人人
 羅
 日

愛律
 三
 新
 屋
 乃

諫
 早

彼
 律

時
 律

為
 才

三十四

長
 寄
 系

長
 寄
 系

長山縣

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]

侍候者今シテ在りて其の事ナリ
夜中
道ヨリ巡邏ノ事
シテ都ノ事ナリ
シテ各隊ノ事
道邊ノ事ナリ
シテ各隊ノ事
シテ各隊ノ事

警備局

第一大隊ニ當ル侍
第二大隊ニ當ル侍

長崎縣

長崎縣

予二天倚口為山倚

各山倚長

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

佐賀表今より平定之より自らを射之
みは残堂に潜匿を能く斗ふ糸而編
及中卒に而に捜索の術に河に夜に
若し石をある者といふ捕縛護送して彼
より少ぬおもひも也
明治三年三月十日 長崎縣令 吉岡 房之

鳴門郡代官

三十七年

長崎縣

休也 然之平定之... 魁之...
建書心勝... 能平... 卒...
前... 後... 者...
... 也
... 也

早波大御侍

大正... 廿...

后...



本日... 平定... 付
各地... 兵解... 係
... 係
... 係
... 係
... 係
... 係

備...

馬...

上...

奇...

海城

須市

為市

市

市

長子島有海... 梅河

川

七年

海城



合

堂

海城... 長子島... 梅河... 川...

長子島

梅河... 川...

大之德也... 祥福之德

長山縣令官印

自... 祥福之德

...

...



...

...



...

Handwritten Japanese text on a vertical strip of aged paper, organized into columns by vertical lines. The text is written in a cursive style (sōsho). The characters are arranged in approximately four columns, reading from right to left. The paper shows signs of age, including discoloration and some staining at the top and bottom edges.

一 軍務訪員... 一 備長... 一 備前... 一 備後... 一 備中... 一 備前... 一 備後... 一 備中... 一 備前... 一 備後... 一 備中...

一 備前... 一 備後... 一 備中... 一 備前... 一 備後... 一 備中...

Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

出此之政事

長岡縣

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]

佐賀縣賊流今之銘定お其其
るより高縣呂莫方其解流の致方佐
賀中常大之原由解らるるお其其
解流一の致方此原お其其

七
長岡縣合宮川坊之

長岡縣

迫于別我無械彈其業收入之積
書一過因查其積之重物歷之
可事

[Faint bleed-through text from the reverse side]

以般解隊者達片年定之
於下後
明
年
十
一
月
初
一
日
起
列
入
公
冊
應
入
本
冊
之
後
年

本年九月
去清縣人高為之

Faint vertical text in a grid on the right page, possibly bleed-through or ghosting from the reverse side.

中書未傳七書中傳

佳景孫賦徒金う能定あまの身
あまの身あまの身あまの身あまの身
あまの身あまの身あまの身あまの身
あまの身あまの身あまの身あまの身

七年三月廿七日

○白峰瑞如力... 干あ一絶... 出以可

[Faint, mostly illegible vertical text in columns]

第一方隊三番

日 八番 午

第二方隊二番 山隊長工

日 三番 野軍兵

日 四番 野軍兵

今般方一方隊番少隊內半隊成石村
出由月廿三日自今西出口出庄及
宿中港內出匯并縣縣裁判所門衛或
懲嚴認成隊木其隊中合輪番可
致在以此相送(取書)

七年三月九日

宮川縣令

子山

才十天區乃長工

先淑法賀縣

山田陸軍少將ヨリ

負属隊御用

令相及至りて共右ハ

初痛之可別紙之通功賀縣出役内務省

ヨリ

明治七年四月十日

長崎縣

皇太子御事

長崎縣

明正年正月七日

縣廳往復

第一二三號信條

監督

陽年五二名定入陽下何也
指條
及可回也

江天屬

上

奇

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]

前時より白く少く巡遊之
子者有る如く糸市中国量
國一海若也其年他国候
より其より河合殿と申す
下月廿七日 卯村心賢
山川景観殿
多岐屋藏之丞 仕立候
中右よりあるは

Blank page with vertical lines and significant water damage.

古山

五尖

[Faint, illegible handwritten text in a large rectangular frame]

第一条 第二条 第三条 警备隊中
靴 去 足 定 靴 下 流 中 兵 兵 兵
渡 方 可 有 事 事 事

以 爲 平 月 中 兵 頭 兵 事

第一二之警備隊

四 警 備 隊

警 備 隊

長崎

Handwritten text in a cursive style, possibly a list or record, located in the upper right section of the page.

力三三隊監督工

富島見人街道取締トミテ半隊

ツクテ取締可少クは有テ

長崎参事兵匠山越

明治七年三月十八日

長崎

長崎縣

[Blank lined area]

以日亦談之如一二三隊中
ヲ以六千之數 在池三三有月之日
まゆらるるり海りま 陸中乃之

長崎縣
高野成

才一二三隊

算書の中

林田由之介

長崎縣

五山集

五山集

五山集
五山集
五山集
五山集

此書之有與夫用之者其多矣
予部有存而長而日行一
世道之不一也若夫其
古何如也

二月十日
五山集

五山集
五山集

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

巡邏規則

一 巡邏 黎明至夜、四次に分ち各隊
 半隊之六文之番之ヲ勤ムベシ
 一 晝間 剋期於中、一他死遠
 一 晝夜 巡邏之勤ムベシ
 一 巡邏 中、休息所ニ立寄リ、又
 他人ノ家ニ入ルル者、
 但馬ノ者、一節ニ限ルル
 一 巡邏 中、隠シテ被突ル者、

一胡礼ノ言アル時ニ達ニ由礼監部
ノ内建シ得ル也

他種藉者捕得ル時タルハ
授ク其後也
苦シカラス

一出火又者之ノ件見タル事
隊他ノ内ノ人建シ監部ノ中
至周ノ語クベク餘ハ其後也
事一実ク探キテ也
右ノ條ノ可確守也

女お

修其初多承ノ事
兵ノ抗敵ノ如来不憚
奉初在罪由白アリ客ニ付即内征
討トシテ守之
之者共ニ知
以テ科
句角
以テ
事

但之者 捕獲之者 係之者
以候之者 係之者
以候之者 係之者
大久保内務卿

有之通 与有之者 有之者 有之者

七年 二月 有之者 本所和合寺川房之

第一二三番係係五番
第一四五番係係五番

身 儀之次 薄乃 且之 案
可副 監督共 至 為 心

出 聽 有 者 上 供 事
二月 十日 遊 書 備 局

第一三番係
第一四番係
与 有 者 備 局

日景之紀、走、
少、
即、
其、

[Faint bleed-through text from the reverse side]

諸、
有、
之、
也、

監、
督、

監、
督、

嘉

嘉

長崎縣燒印

通行鑑札

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]

前時より、今日中程の

ことあり、その後、今日十四日

降、翌日の朝、今日中程の

ことあり、その後、今日

ことあり、その後、今日

ことあり、その後、今日

ことあり、その後、今日

ことあり、その後、今日

Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of a document or a list of names and titles. The characters are somewhat faded and difficult to read precisely.

用波樹

監督徵言備隊此集所...
自分在商五用...
一同兵糧...
以...
Handwritten text in vertical columns, continuing the transcription or notes.

明治七年二月十九日

少所

史方之

新

公

Handwritten notes in cursive script, mostly illegible due to fading.

景

Handwritten characters, possibly a signature or date.

Handwritten characters.

Handwritten characters.

非常子異

時久縣廢ヲ進退

上毛指揮

糸決ヲ令ヲ不殊

自己

相本居此段急度

相遠

隊中無油口散遣

可致

防他

七年一月九日

兵野參事

第三三隊

監督中

長崎縣



